



# 加賀爪氏累代の墓

昭和五年二月県指定旧跡

加賀爪氏は、徳川家に仕えて禪高ぜんこう一万石を領し、この地に陣營ちんえいをおいた領主です。しかし、元和元年(一六八一年)に加賀爪氏は、その家祿を断絶されました。

加賀爪政高は、徳川家康に仕え、長久手の戦、小田原征伐に戦功があり、比企と相模国高座(神奈川県高座郡)に三千石を領しました。加賀爪忠澄は、関ヶ原の戦、大阪の役に戦功があり五千五百石を領し、江戸町奉行に登用されました。加賀爪直澄は、旗本中の乱暴者として通ったようですが、書院番隊長、寺社奉行等を勤めました。また、茶道にも通じていたらしく、鶴陽舎一明、別に、名月庵鑑とも号していたと伝えられています。

加賀爪氏は、直澄の代に成瀬氏との間で領地問題をおこし、天和元年(一六八一年)に領地を没収されています。墓碑は向って右から。

東雲院殿常圓宗深大禅定門(政高)

高濟院殿自久妙然大姉淑堂(政高室) 高き二・七六米

梅陽院殿幸山常居居士(直澄) 自享二乙丑天(一六八五年)十月三日

高雲院殿一玄深黒大居士尊儀(忠澄) 寛永十八年(一六四一年)正月晦日

心光院殿孤雲正白大禅定尼台室(忠澄室) 承応元年(一六五二年)六月二十六日

安藤直次の女

雲澤院殿持孝玄輝居士(直澄) 自享二乙丑天(一六八五年)十月四日 高き二・五二米

正山春高童子(直澄の子) 元和八壬戌天(一六二二年)七月七日 高き〇・七米

無間宗徹居士淑堂(直澄) 万治三庚子年(一六六〇年)舊月念五日 高き二・〇二米

華嚴清香堂女堂位(直澄) 享文十三癸丑(一六七三年)正月七日 高き一・六七米

持教清光院殿常誓貞姓大姉白堂(直澄室) 寛文元丁丑(一六六一)年七月二日

高き〇・九七米

聖観音淨彫 心寛淨香居士 相雲妙悟大姉高き〇・五五米  
と並例しています。

昭和五十二年三月

東松山市教育委員会

文化財を大切にしましょう







